



加賀提燈

歴史と特色

提灯は松明(たいまつ)に代わる携帯用灯火具である。16世紀後半に篋提灯が作られ、17世紀(江戸時代初期)には現在のような火袋の折りたたみ箱提灯が作られた。その後、ぶら提灯、高張り提灯、弓張り提灯、小田原提灯と種類も増え、用途も灯火用から祭礼用、観灯、装飾用と広がっていく。提灯の普及は江戸時代に安価な和ろうそくが生産されるようになったためでもある。金沢では、最盛期には60軒の提灯屋があったが、懐中電灯の普及、街灯の整備等のため激減した。現在は提灯と兼業した数少ない和傘職人が、祭礼用装飾用として製作している。加賀提灯は、竹ヒゴを1本1本切断して骨にしており、岐阜提灯等のように長い竹を螺旋状に巻いた提灯と異なるため、伸びが大きく、1本が切れても全部がはずれることがなく丈夫なことが特徴である。

歴史與特色

在16世紀後半期，作為攜帶用的燈具而製造出來的燈籠逐漸取代松明，並廣泛用於祭祀，裝飾等處。在金澤，最繁盛的時期，有60家燈籠店。加賀提燈與其它將長竹卷成螺旋狀的燈籠有所不同，採用截成很短的竹篾作為骨架，其伸展度大而且很結實。

情報 資訊

| | |
|--------------|---|
| 主な生産地(主要産地) | 金沢市(金澤市) |
| 主な製品名(主要産品名) | 祭礼用提灯、装飾用提灯(祭祀用提燈、裝飾用提燈) |
| 主な生産者(主要生産者) | 五十嵐商店(五十嵐商店) 〒920-0903 金沢市博労町62(金澤市博勞町62) TEL (076) 231-7441 |



加賀水引細工

歴史と特色

水引は元来贈り物の飾りとして、主に祝事に用いられた。その語源は麻などを水に浸して皮をはぎ、ひもとしたことにあると言われ、紙の発達と同時に美しい水引ができたものと思われる。

江戸時代、武士や町人の頭にまげを結ぶ元結いとしても作られていた。現在は、材料の水引は県内で作られていないが、水引細工は技術も進歩し、特に慶事用の華やかな松竹梅や鶴・亀・宝船飾りなどが受け継がれている。また大正初期に、津田左右吉氏が屠蘇につける蝶からヒントを得て内裏びなを考案し、水引人形の基礎を作り、技法が津田家に伝えられている。この人形は、金沢の風土にあるわびさびの精神に通じる気品の高い人形として、高い評価を受けている。

歴史與特色

水引為禮物的一種裝飾，主要用於喜慶事時，與和紙共同發展起來。加賀水引承襲了喜慶事時用的華麗裝飾，如松竹梅、龜、鶴和寶船等。水引人偶也因作為承傳加賀文化的人偶而受到很高的評價。

情報 資訊

| | |
|--------------|---|
| 主な生産地(主要産地) | 金沢市(金澤市) |
| 主な製品名(主要産品名) | 内裏びな、芭蕉翁、婚礼用水引飾など (天皇皇后の擬人偶、芭蕉翁、婚禮用水引裝飾等) |
| 主な生産者(主要生産者) | 津田水引折型(津田水引折型) 〒921-8031 金沢市野町1-1-36(金澤市野町1-1-36) TEL (076) 214-6363 |

加賀水引細工